

総合的な学習の時間

第1学年

尾道市立向島中学校

指導者 榎野 太洋
和久野 沙莉
池内 美紀

単
元
名

Team しまっ子 ～私たちがつくる持続可能な世界～

本校の育成する資質・能力

コミュニケーション力

主体性

- 1 日 時 令和3年9月24日(木) 13:30～14:20
- 2 学年・学級 1年2組(男子13名 女子17名 計30名)
- 3 場 所 1年2組教室
- 4 単元について

(1) 単元観 (題材観)

本校では、中学校学習指導要領(平成29年告示)第2章第2節総合的な学習の時間の目標及び本校の教育目標を踏まえ、次のように目標を定めている。

<向島中学校における総合的な学習の時間の目標>

探究的な見方・考え方を働かせ、国際教育、キャリア教育に関わる総合的な学習を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにするための資質・能力を育成する。

- (1) 国際教育、自己の生き方に関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、日本文化や地域のよさに気付いたり、自己の将来について考えたりするよさを理解する。
- (2) 国際教育、自己の生き方中から問いを見だし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。
- (3) 国際教育、自己の生き方の探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。

この単元では、探究的な見方・考え方を働かせ、持続可能な社会の実現のために活躍する方々との出会いを通して、自分たちが暮らす地域の課題について理解し、SDGsが自分たちの暮らしとつながりがあることに気づき、地域にある課題を解決するために中学1年生の自分たちにできることに取り組む資質・能力を育成することをねらいとしている。

小学校では、小学校区の生き物や山、島などの自然環境の調査を行ったり、向島の歴史について理解を深めたり、地域に伝わる伝統行事を調べたりした。これらの活動を通して、向島のよさを発見し、向島のために自分たちにできることを考え、伝え合う活動を行ってきた。

中学校第1学年では、SDGsについて理解を深め、小学校で学んだことと結び付けて、向島に存在する環境問題、経済問題、社会問題について調べる。また、それらの問題を解決するために中学生である自分たちができる取組を考え、企画書を作成し、実際に地域の方々と協力しながら実践する。取組を考えるにあたり、「本当に中学生に実行できるのか」、「時間や準備物は十分であるか」などの観点から、より実行性の高い取組となるよう、グループ活動や意見交流を設定したい。これらの活動を通して、「思考力・判断力・表現力」を育て、地域に関心をもち、地域の貢献しようとする「社会貢献力」を伸ばすことができる単元である。

(2) 生徒観 (調査結果等から見る課題)

表は「課題発見・解決学習」に関するアンケート調査の結果である。表①②を見ると、課題を解決しようとする生徒が多くいる一方で、意欲が低い生徒も複数いることが課題である。また、表③を見ると、自分の考えを積極的に伝えることが苦手な生徒が多い。このことから、設定した「本校の育成を目指す資質・能力」については、「コミュニケーション力」に特に課題があると言える。現在、生徒はインターネットなどを用いてSDGsの17の目標の内容や日本や世界の企業がどのような取組をしているのかを調査し、児童労働や食品ロス、リサイクルなどに興味をもっている生徒が多い。

グラフ①は総合的な学習の時間でSDGsを学ぶまでの程度知っていたかを調査した結果である。1学期は、SDGsとは何か、17の目標の内容、取り組みについて学んだ。総合的な学習の時間で学ぶまでは、名前は聞いたことがある程度で、詳しく知っている生徒は少ない。

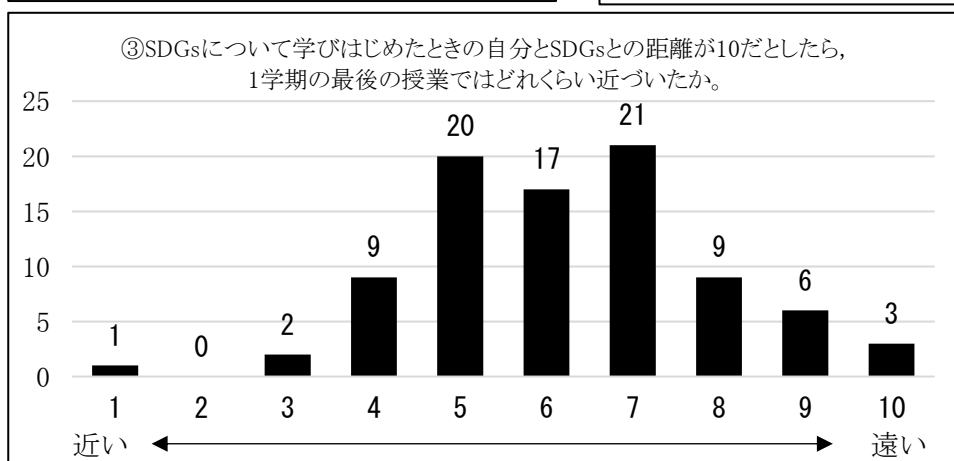
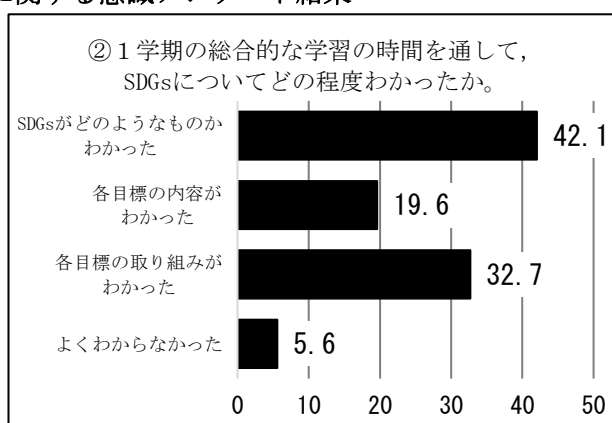
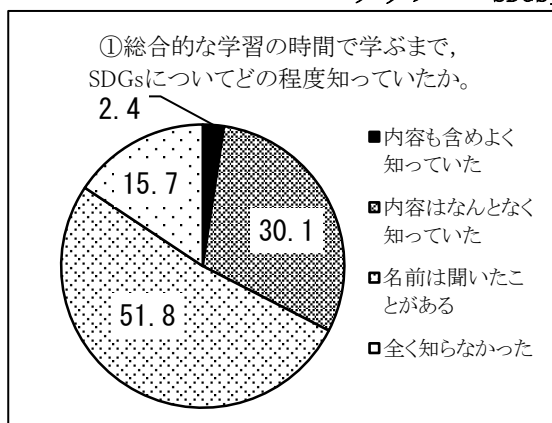
グラフ②は1学期の総合的な学習の時間を通して、SDGsについてどの程度理解することができたかを調査した結果である。「よくわからなかった」と答える生徒は5.6%で、多くの生徒がSDGsについて理解を深めたことがわかる。

グラフ③は総合的な学習の時間でSDGsについて学び始めたときの自分とSDGsとの距離を10としたとき、1学期の学習を通してどの程度SDGsに近づいたかを調査した結果である。1学期の学習の後、SDGsとの距離が5以上であると答えた生徒が84.9%だった。その理由として、「どのように協力すれば良いかわからない」など、自分事として考えられていない生徒が大半である。

表 「課題発見・解決学習」に関するアンケート結果

質問項目	よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
①授業では、解決しようとする課題について「なぜだろう」、「やってみよう」と思う。	20.5%	61.4%	15.7%	2.4%
②授業では、課題を解決するために、進んで資料を集めたり、取材をしたりしている。	17.9%	44.0%	29.8%	8.3%
③授業では、自分の考えを積極的に伝えている。	13.1%	42.9%	36.9%	7.1%

グラフ 「SDGs」に関する意識アンケート結果



(3) 指導観（指導改善のポイント）

このような実態をふまえ、次の3点の指導の工夫を行う。

- ①課題に対して意欲的に取り組めない生徒が複数いることから、課題を自分事として考えさせる。SDGsについてインターネット、テレビ番組、講話など様々な方法で情報を収集し、国や企業という大きな組織の取組だけでなく、生徒が身近に感じることのできる問題や取組を調べさせる。また、小学校の総合的な学習の時間に行ってきた学習を振り返り、SDGsと結び付けて考えることで、自分たちがやってきたことはすでにSDGsと関連していたことを再認識させる。さらに、中学1年生の自分たちが地域の問題を解決するためにできることを考え、実行することで、SDGsをより身近なものとして考えられるようにする。
- ②コミュニケーション力に課題があることから、段階的に考えることのできるワークシートや振り返りシートを用いて、十分な個人思考の時間をとり、自問自答を繰り返しながら思考を深めさせ、自分の意見をもたせる。また、自分の思いや意見を表現する力を身につけさせるために、様々な場面で、ペア活動、グループ活動を設定し、表現することに慣れさせる。発表や話し合いの際に切り返しの発問をしたり、生徒同士で質問し合う場を設定したりすることで、柔軟に受け答えできる力を身につかせ、表現することに自信をもたせる。
- ③SDGsを自分事として考えられていない生徒が多いことから、単元を通して1枚の振り返りシートを用いて、毎時間、「SDGsと自分との距離感」を問い続け、距離感の変化が生じた理由を書かせる。わかったことやわからなかったことを個人思考することで、新たな知識を得る前と後とで変化があったことに気づかせ、意図的にSDGsと自分をつなげて考えさせる。

単元の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、地域の人、もの、ことに関わる総合的な学習を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。

- ①世界や地域の社会問題に関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身につけるとともに、地域の特徴やよさがわかり、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることを理解している。
- ②小学校での学習や地域生活の中から問いを見だし、その解決に向けて仮説を立て、調査して得た情報をもとに考えたりする力を身につけているとともに、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ・表現することができるようにする。
- ③地域にある社会問題についての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いの良さを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動のしかたを考え、自ら社会に参画しようとする態度を養う。

単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<p>①持続可能な地域生活の実現には、そこに存在する多様な問題の解決に向けて人や組織と目的を共有して取り組むことが必要であることを理解している。</p> <p>②地域にどのような社会問題が存在しているか、またどのように解決することができるかを捉える調査を、目的や対象に応じた適切さで実施することができる。</p> <p>③持続可能な地域生活の実現に関する理解は、人や組織と目的を共有して取り組んできたことの成果であることに気づいている。</p>	<p>①小学校の総合的な学習の時間に学んだことを振り返る活動を通して、その背景にある地域の社会問題を明らかにし、解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てることができる。</p> <p>②地域の社会問題の現状を捉えるために必要な情報について、多様な方法の中から効果的な手段を選択している。</p> <p>③収集した情報を比較・分類することで、「自分たちにできる取組」、「確実な効果が期待できる取組」につながるものとして整理しながら解決に向けて考えることができる。</p> <p>④持続可能な地域社会の実現に向け、調査結果やグループで立てた企画について、グラフや地図、写真、表を使って効果的に表し、企画書を作成している。</p>	<p>①課題解決に向けて、自分たちの住む地域の魅力やよさに気づき、探究活動に進んで取り組もうとしている。</p> <p>②身の回りで起きている社会問題を理解し、その解決のため実行性のある取組の実施に向け、自他の考えを生かしながら、協働して取り組もうとしている。</p> <p>③持続可能な地域生活を次世代につなぐために、自分の生活を見直し、地域と協働しながら自分にできることに取り組もうとしている。</p>

指導と評価の計画

小単元名	学習過程	時数	学習内容 学習活動	評価規準 (評価方法)	教科との 関連
前期	動機付け	1	○小学校の総合的な学習の時間で学習したことの交流をする。		
	情報収集	2	○SDGs とは何かを調べる。		

		3	○SDGs の 17 の目標について調べる。			
		4	○調べた目標の内容を簡単に説明できるようにする。			
		5	○17 の目標の具体的な取組を調べる。			
	造 ・ 表 現	ま と め ・ 創	6 ~ 7	○調べた取組を交流する。		
			振 り 返 り	8	○前期の振り返りを行う。	
「 T e a m し ま っ 子 ~ 私 た ち が つ く る 持 続 可 能 な 世 界 」	動 機 づ け	1	○前期単元の振り返りを行う。 ・SDGs とは何だろう？ ・前期の学習を通して SDGs と自分との距離は近づいただろうか？	主-① (行動観察・発言 内容・ワークシ ート)		
	情 報 収 集	2	○動画を視聴する。 使用動画：池上彰のニュースそうだったのか！！ ・自分たちにできることはないだろうか？	主-① (行動観察・ワー クシート)	社会	
		3	○SDGs についての意見を交流する。 ・これからもっと知りたいことはないだろうか？ ・どのように調べていったらよいだろうか？	主-② 表-② (行動観察・発言 内容・ワークシ ート)	国語	
		4	○家や近所で行っている SDGs につながり そうなことを交流する。 ・普段の生活の中で SDGs につながることは ないだろうか？	主-② 表-② (行動観察・発言 内容・ワークシ ート)	国語 社会 理科 保健体育 家庭科	
		5	○RCC の方の講話を聞く。 ・企業ではどのようなことをしているのだ らうか？ ・個人ではどのようなことをしているのだ らうか？	主-① 知-②③ (行動観察・発言 内容・ワークシ ート)	国語 社会	
		6	○講話の振り返りをする。 ・これまでの活動で SDGs につながって いることがあったのではないだろうか？	主-③ (ワークシート)	国語	
	整 理 ・ 分 析	7	○小学校の総合的な学習の時間の取り組み を振り返る。 ・小学校では何をしたらろう？ ・その背景にはどのような問題があるのだ らう？	表-① (行動観察・ワー クシート)	社会 理科 保健体育 家庭科	

		8	○各グループの考えを発表する。 ・地域のどこにどのような問題があるのだろうか？	知-② 表-①② (行動観察・ワークシート)	国語 社会
		9	○意見を交流する。 ・そのほかの問題はないのだろうか？ ・問題を解決するために自分たちにできることはないのだろうか？	表-② 主-② (行動観察・発言内容)	国語 社会
	課題設定	10	○問題を解決するための取り組み案を考える。 ・どこでするのか、誰がするのか、必要なものは何か？	知-② 表-① 主-② (行動観察・ワークシート)	技術
	まとめ・創造・表現	11	○発表をする。 ・その取り組みは実行できるのだろうか？ ・よりよい取り組みにするにはどうしたらよいのだろうか？	主-② (行動観察・発表資料)	国語 技術
		12 「本時」	○取り組みを改善する。 ・実行するために不足しているものは何だろうか？	表-③ (行動観察・ワークシート)	国語 技術
		13	○取り組みの企画書を作成する。 ・わかりやすい企画書にするにはどのようにまとめたらよいだろうか？ ・本当に実行可能なのだろうか？ ・時間、準備物、人手は十分だろうか？	表-④ (行動観察・ワークシート)	国語 技術
	実行	14 ～ 16	○考えた企画書をもとに、取り組みを実行する。 ・今後継続するには何が必要だろうか？ ・この取り組みを続けることで問題を解決することはできるのだろうか？	知-①② 主-①②③ (行動観察)	国語 社会 理科 保健体育
	振り返り	17	○単元の振り返りをする。 ・中期の学習を通してSDGsと自分との距離は近づいただろうか？ ・新たな発見はあっただろうか？	知-③ 主-③ (ワークシート)	

本時の学習

(1) 本時の目標

地域の課題を解決するために、他者からの意見を整理・分析し、より実行性の高い取組を考えることができる。

(2) 観点別評価規準

C	B	A
他者からの意見をもとに、より実行性の高い取組を考えることができる。	他者からの意見を整理・分析し、より実行性の高い取組を考えることができる。	他者の意見を受け入れ、多面的・多角的な視点から、より実行性の高い取組を考えることができる。

(3) 準備物

ワークシート、テレビ、Chromebook

(4) 学習の展開

	学習活動	◇指導上の留意事項 ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて	評価規準 (評価方法)
導入 【発見】	<p>① 導入</p> <p>1. 前時を振り返る。</p> <p>2. CMを見る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 「一度で完全な企画書ができることはなく、様々な人と協働し、何度も試行錯誤を繰り返すことで、よりよい企画書ができる」というメッセージ。 </div>	<p>◇実際に生徒が書いた企画書と意見を全体で見直す。</p> <p>◇登場人物の相手に対する気持ちの変化や、その変化がもたらした結果に注目しながら見るよう指示をする。</p> <p>◇ぶつかりながらも意見を言い合うことが成功につながったという思いを想起させ、めあてにつなげていくようにする。</p>	
	本時のめあて 友達からの意見をもとに、取組をフラッシュアップしよう。		
展開① 【思考】	<p>③ 他者からの意見の整理・分析</p> <p>1. グループに分かれ、Jamboardを用いて、意見を整理する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ・何に対する意見なのかなど </div>	<p>◇グループで役割を決め、スムーズに話し合いが進められるようにする。 役割例) 司会、書記</p> <p>◇考える視点を提示する。</p> <p>◇話し合おう！向島スタンダードを取り入れる。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> (レベル3) 友だちの意見を生かしてよりよい解決方法を見つけ出そう </div>	

	<p>2. 整理した意見を分析する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜそのような意見が出てきたのか ・改善すべき点は何なのか <p>など</p> </div>	<p>◇Jamboard を活用してうまく整理・分析しているグループの様子を、テレビで紹介する。</p> <p>◆机間指導をしながら、思考の手助けを行う。</p>	
<p>展開② 【深化】</p>	<p>④ 取り組みの改善</p> <p>1. ③で整理・分析した意見をもとに、実行可能な取り組みを考える。</p> <p>2. 企画書にまとめる。</p>	<p>◇実行するのに必要な時間、人手、準備物など具体的に考えるように指示をする。</p> <p>◇実行可能であるかどうかを、様々な視点から考えるよう指示をする。</p> <p>◆机間指導をしながら、思考の手助けを行う。</p> <p>例) 時間は足りるか？ 必要なものは準備できるのか？ 地域の方の協力は必要か？</p>	<p>収集した情報を比較・分類することで、「自分たちにできる取り組み」、「確実な効果が期待できる取り組み」につながるものとして整理しながら解決に向けて考えることができる。(行動観察, ワークシート)【表-③】</p>
<p>終末【まとめ・振り返り】</p>	<p>⑤ 振り返り</p> <p>⑥ 次時は企画書を完成させることを理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○B 評価の生徒の振り返り例</p> <p>よりよい企画にするためには、いろいろな意見をもとに、改善を重ねていく必要があるとわかった。その際、一人だけの意見ではなく、たくさんの人から意見をもらうことで、同じ内容に対しても全く違う考えがあり、「どうしたらよくなるのか」「これのよさを残すにはなにを変えるべきなのか」など、考えることができた。</p> </div>	<p>◇振り返りの視点を与える。</p>	

仁和寺にある法師 —「徒然草」から—

本校の育成する資質・能力

コミュニケーション力

主体性

- 1 日 時 令和3年9月24日（金）13：30～14：20
- 2 学年・学級 2年1組（男子17名 女子15名 計 32名）
- 3 場 所 2年1組教室
- 4 単元について

（1）単元観（題材観）

本単元は、中学校学習指導要領（平成29年告示）国語〔第2学年〕「読むこと」C（1）オ「文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。」に関する単元である。

本単元では、次のような資質・能力を育成することと示されている。

- （1）読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
オ 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
- （2）（1）に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。
イ 詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。

この事項の学習について、「文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付ける際には、関連する知識や経験を想起して列挙するのみでなく、それらと結び付けることによって、理解したことや考えたことを一層具体的で明確なものにしていくことが重要である。読み手がもつ知識や経験は一人一人異なることから、どのような知識や経験と結び付けるかによって、同じ文章を読んでも考えは多様なものとなることが考えられる。その上で、他者の考えやその根拠、考えの道筋などを知り、共感したり疑問をもったり自分の考えと対比したりすることが、物事に対する新たな視点をもつことにつながり、自分の考えを広げたり深めたりすることになる。」とある。

小学校5学年及び6学年「読むこと」Cでは、オ「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。」及び、カ「文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。」を通じて、考えの形成や共有について学習してきている。

本単元では、「徒然草」を題材に、作中から読み取れる作者のものの見方や考え方を理解したうえで、学習者自身の知識や経験と結び付けて文章にまとめる活動を通して、上記のような力を育成することができる考える。

また、古典の学習を通して、現代に通じる価値観や現代とは異なる価値観に触れ、今を生きる自分たちを振り返るきっかけとすることで、「なぜ古典を読むのか」「古典から学ぶとはどういうことか」といった本質的な問いについて考えを深めることができる単元である。

（2）生徒観（調査結果等から見る課題）

令和3年度標準学力調査結果から、本学年の生徒の正答率は、基礎・活用のいずれにおいても全国平

均を上回っており、特に「書くこと」の領域では、全国平均を8ポイント上回っている。このことから、本学年の生徒は「書く」力がある程度身に付いていると考えられる。しかし、内容ごとの正答率を見ると、「伝えたい事実や事柄について自分の考えを明確にして書くことができる」に関しては正答率が32.1%と全国比+6.1であるものの、この設問に対する無解答率は31.6%であり、類型外解答も32.6%とすべての設問の中で最も高い数値である。

全体通過率

国語	本校	全国
全体	70.2	68.5
基礎	73.6	71.5
活用	58.3	58.0

各設問正答率

設問内容	本校	全国	類型外解答	本校無解答
伝えたい事実や事柄について自分の考えを明確にして書くことができる。	32.1	26.0	32.6	31.6

この設問は、中学生が食品ロスについて書いたレポートの下書きの空欄部分を、作者の考えを読んで理解したうえで、それをもとに指定された字数で記述するという内容になっている。生徒の誤答を分析すると、自分の意見を書いている生徒も、その前提となるレポートの下書きの内容や作者の考えの正確な読み取りが十分でないことが多く、そのことが無解答の生徒の増加にもつながっていると考えられる。書かれたものの内容や作者の考えを読み取ることで、自分の考えを明確にして書くことの双方に課題が見られる。

(3) 指導観（指導改善のポイント）

このような実態をふまえ、次の三点の指導の工夫を行う。

- ①『徒然草』を読むうえで基礎となる歴史的仮名遣いの読み方や古語の意味を、暗唱テストや小テストを行うことで定着させ、現代語訳や語注と併せて視覚教材を活用し、内容の確実な理解を図る。
- ②教訓と自身の体験を書かせる際に、登場人物の失敗談やその教訓を読み取ることができるような複数の章段を読ませる。そこから選んで書かせることで自己決定を通して、主体的に生徒自身がその作品の内容を経験や体験と結び付けながら理解できるようにする。
- ③書くことが苦手な生徒が書き切ることができるよう、書くためのポイントや筋道を明確にしたり、別の章段について書いた文章を例示し自分の体験と結びつきやすい場面を選択させる。さらにChromebookを用いて生徒が個別の定着度に応じて学びを調整できるようにする。

単元の目標

- 現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。
[知識及び技能] (3) 我が国の言語文化に関する事項
- 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
[思考力、判断力、表現力等] C 読むこと (1) オ
- 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
[学びに向かう力、人間性等]

単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。	①「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。	①言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとしている。

指導と評価の計画

次	学習内容	評 価	
		観 点	評価規準（評価方法）
1 課題設定	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書を読み、学習の目標と見通しをもつ。 ◎学習課題 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">鎌倉時代に書かれた「徒然草」と、現代を生きるわたしたちとのつながりを見つけよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○作品の時代背景や作者について知る。 ○「徒然草」の冒頭部分（序段）の範読を聞き、ペアで朗読する。 ○歴史的仮名遣いや語句の意味について確認する。 ○序段の内容を捉え、作者の考え方に触れる。 	知・技	<ul style="list-style-type: none"> ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。（行動観察）アー①
	<ul style="list-style-type: none"> ○第5 2段の範読を聞き、ペアで朗読する。 ○第5 2段のあらすじを捉える。 ○歴史的仮名遣いや語句の意味について確認する。 ○仁和寺の法師の勘違いについて説明し合う。 ○仁和寺の法師の失敗の理由と、どうすればよかったのかを考え、話し合う。 ○他の作品について紹介する。 	知・技	<ul style="list-style-type: none"> ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。（行動観察）アー①
2・3 情報の収集・整理	<ul style="list-style-type: none"> ○「奥山に、猫またといふものありて」（第8 9段） 「或人、弓射る事を習ふに」（第9 2段） 「丹波に出雲といふ所あり」（第2 3 6段）の章段を読む。 ○書かれている内容を捉え、印象に残った章段を選び、以下の3点についてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の行動の背景にある心理 ・自分の体験や日常とのつながり 	思・判・表	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。（ワークシート）イー①

	<p>・この話の教訓</p> <p>○まとめた内容について交流する。</p> <p style="text-align: center;">【本時 3/4】</p>		
4 まとめ・ふりかえり	<p>○同じ章段を選んだ友達と、まとめた内容を読み合い、意見を述べ合う。</p> <p>○全体で交流する。</p> <p>・『徒然草』で描かれる人々のありようと、私たちのつながりは何だろう。</p> <p>・『徒然草』はなぜ現代まで読み継がれる古典となっているのだろう。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	書	<p>・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。</p> <p>(行動観察・振り返り) ウー①</p>

本時の学習

(1) 本時の目標

「徒然草」を読んで、登場人物の心理やその話の教訓を読み取り、自分の知識や経験と結び付けてまとめることができる。 (読むこと)

(2) 観点別評価規準

C	B	A
登場人物の心理を読み取ることができていない。または、心理は読み取れているが、それを自分の体験や教訓と結び付けることができていない。	登場人物の心理と、自分の知識や体験を結び付けることができていない。	登場人物の心理と自分の知識や体験を結び付け、作者のものの見方や考え方に触れながら教訓をまとめている。

(3) 準備物

教科書、ワークシート、テレビ、掲示資料、Chromebook

(4) 学習の展開

	学習活動	◇指導上の留意事項 ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて	評価規準 (評価方法)
導入 【発見】	<p>①前時の復習 「仁和寺にある法師」で、読み取った内容を確認する。 ・生徒の振り返りをもとに内容を確認する。</p> <p>②前時に学習した「仁和寺にある法師」以外の、3つの章段を読む。</p> <p>・「奥山に、猫またといふものありて」 (第89段)</p> <p>・「或人、弓射る事を習ふに」 (第92段)</p>	<p>◇登場人物の心理や性格や示されていた教訓について確認し、本時の学習内容につなげる。</p> <p>◇学習者主体の学びの雰囲気作りをする。</p> <p>◆本文・現代仮名遣い・現代語訳の他に、内容を読み取ることが困難な生徒に、Chromebookでヒントを明示する。</p>	

	<p>・「丹波に出雲といふ所あり」 (第236段)</p> <p>③めあての提示</p>		
<p>本時のめあて 選んだ章段から、登場人物の心理や教訓を読み取ろう。</p>			
<p>展開① 【思考】</p>	<p>④ 3つのうち印象に残った章段を選び、読み取った内容から、以下の3点について自分の考えをまとめる。 【個人思考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の行動の背景にある心理 ・自分の体験や日常とのつながり ・この話の教訓 	<p>◇ 3つの章段から選ばせることで、主体的に学習に取り組もうとする意欲をもたせる。 【自己決定の場を与える】</p> <p>◆ 内容を理解したりまとめることが困難な生徒に、別の章段についてまとめた例を提示したり、書くためのポイントや道筋が分かるヒントをChromebookで提示する。</p>	<p>・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 (ワークシート) 【思・判・表】</p>
<p>○生徒の解答例</p> <p>私は「丹波に出雲といふ所あり」が印象に残った。 理由は、聖海上人は獅子の立ち方に対して、立派な大社ならきっと何かしら理由があるに違いないと考え、みんなの前で神官を呼んでまで理由を尋ねたが、それが子どものいたずらであったことが滑稽だったからだ。 私も授業で、自分だけで考えた解答に自信があって発表したら、その答えが間違っていて、自信があっただけに恥ずかしい思いをしたことがある。そのとき友達に確認すれば良かったと後悔した。 これらのことから、この話は「自分のことを過信しない！」という教訓が込められているのだと考えた。</p>			
<p>展開② 【深化】</p>	<p>⑤まとめた内容について交流する。 【グループ思考】</p> <p>⑥全体発表（数名）</p>	<p>◆ 交流、発表を通して気付いたことや考えたことがあれば加えさせる。</p>	
<p>終末 【まとめ・振り返り】</p>	<p>○生徒の振り返り例</p> <p>私は「丹波に出雲といふ所あり」を選んでまとめました。聖海上人のように、自分が思い込みで話したり行動したりしたことで恥ずかしい思いはしたくないと感じました。 兼好法師が鎌倉時代に書いた作品なのに、今の自分たちの生活の中でも同じようなことがあるんだなと思いました。1000年以上前に生きた人たちも、同じような失敗をしていたと思うと、この時代にいた人たちも「徒然草」も少し身近に感じられました。</p>		

道徳科

第3学年

尾道市立向島中学校

指導者 平原 広治

単
元
名

希望

～ともに生きる社会の実現～

(出典：「中学校道徳 あすを生きる③」)

本校の育成する資質・能力

コミュニケーション力

主体性

- 1 日 時 令和3年9月24日(金) 13:30～14:20
- 2 学年・学級 3年2組(男子20名 女子17名 計37名)
- 3 場 所 3年2組教室
- 4 教材について

(1) 主題観 とともに生きる社会の実現 内容項目(C 社会参画)

本主題は、学習指導要領「特別の教科 道徳」内容項目C(12)社会参画・公共の精神を基に設定したものである。社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めることを基盤に展開していく。

「社会参画の意識」とは、共同生活を営む人々の集団である社会の一員として、その社会における様々な計画に積極的に関わり、社会的な役割や責任を果たそうとすることである。「社会連帯の自覚」とは、社会を構成する多くの人々と助け合い協力しながら、誰もが安心して生活できる社会をつくらうとする意識を深めていくことである。

中学生にとって社会は決して遠い存在ではなく、自分も社会の一員であるという自覚を深めさせる必要がある。本主題により、資料の中の「心のざわめきを覚え自分を省みた」という部分に思いを寄せ、諸活動を人任せにしていなかったか、自分の利益を基準にして行動していないかを振り返り、よりよい社会の実現のために自分に何ができるのか、何が必要なのかを多面的に考え、深めさせていく。

(2) 生徒観(調査結果等から見る課題)

本学級の生徒は、優しい生徒が多く、困っている友人に声をかけ支え合って生活している場面が多くみられる。今年度実施した全国学力定着状況調査の質問紙の「人の役に立つ人間になりたいと思う」に対し100%の生徒が肯定的な回答をしている。(全国平均95.0%)

しかし、中学生の時期は、世の中の体制に不満や批判をもち始めるが、時としてそれは自分勝手な言動になったり、他者を傷つけたりすることもあるが、そのような自分を肯定しているわけではない。多くの生徒が内心では、よりよい社会を実現したいと切実に考えている。ただ、具体的な行動を起こすとすると尻込みしている現状がある。

(3) 指導観(指導改善のポイント)

本教材は、東日本大震災での体験に基づく、「生命尊重」を考えることもできる教材である。今回の授業においては、懸命に復興へ向けて働く人々の姿から、「心のざわめき」を覚え、今までの自分の生き方を振り返る「私」。そして、毎日を懸命にせいっぱい生きていこうと決意した「私」の姿に共感し、同世代の実話をとおして、よりよい民主的な社会を実現するために、自分はどのようにして社会に参画し、社会全体の利益のために尽くせるかという前向きな気持ちを引き出したい。

また、私たちが生活する社会をよりよいものにしていくには、他人任せにするのではなく、自ら主体的に参画して、社会的な役割と責任を果たすことが大切である。人との関わりが希薄になって

いるといわれているが、人と人の温かなつながり合いがよりよい社会の実現に欠かせないということを感じて、社会を構成する多くの人々と助け合いながら社会連帯を深めることが必要であると気づかせたい。そのために、本授業の発問2の「私の生き方への決意」を通じて、自分自身のこれからの生き方を考えさせたり、交流の場面で、同級生から刺激を受け、自分自身を振り返る時間としたい。

本時の学習

(1) 本時の目標

社会全体に目を向け、よりよい社会の実現に努めようとする意欲を育てる。

(2) 準備物 教科書、ノート、タブレット、パソコン、テレビ

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意事項 (◇)	評価規準 (評価方法)
<p>1 課題意識を持つ。 東日本大震災の写真を見て感想をいう。</p> <p>2 めあてを確認する。</p>	<p>◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て</p> <p>◇未曾有の災害であったことを再確認して授業参加への意欲を高める。</p>	<p>○行動観察</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>授業のめあて 人の役に立ちたいという気持ちを高めることができる。</p> </div>		
<p>3 教材「希望」の範読</p> <p>4 発問1 祖母の「残された命、最後まで生きないとね」という言葉に心がざわざわしたのはなぜか？</p>	<p>◆場面の読み取りが難しい場合は、個別に声かけをして考えやすいよう支援する。</p> <p>◇文章からの抜き出しではなく、自分の言葉で語らせたい。</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>〈予想される生徒の答え〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 45%;">・自分は命を大切にしているのかという自問 <li style="width: 45%;">・生き残った祖母の使命感を感じた <li style="width: 45%;">・命を粗末にはいけないという自分自身の決意 <li style="width: 45%;">など </div>		

<p>4 発問2</p> <p>復興へ向けて働く人々を見て、感じた心のざわめきとは具体的にどのような気持ちだろうか？</p>	<p>◇前の発問の「心のざわめき」との違いを考えさせたい。(生命尊重と社会参画の視点の違い)</p>	<p>○ノート</p>
<p>〈予想される生徒の答え〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人のために動ける人間になりたい ・困難から逃げない生き方をしたい ・なんとなく生きてはいけない ・それぞれ自分にできることをしている姿に心が動いたなど 		
<p>5 意見の交流</p> <p>今回の教材や今までの自分の経験を通じて「あなた」はこれからどのように生きていこうと思うかを発表する。</p>	<p>◇社会貢献という視点で自分の夢や生き方を発表させたい。意見がでない場合は、事前に教員で把握している内容の紹介をして、意見を深めるよう工夫する。</p>	<p>○発表</p> <p>○行動観察</p>
<p>めあてを達成されたと思える生徒の姿（ゴールイメージ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材や自分の経験を踏まえて、将来の夢や自分の理想の姿を語っている。 ・友人の発表に触発され、自分の生き方について考えようとしている。 		
<p>7 本時の学習の振り返り。</p> <p>ノートに感想を書く</p>	<p>◇時間があるようなら全体で交流する。</p>	<p>○ノート</p>